

平成28年5月20日

各〔都道府県
保健所設置市
特別区〕衛生主管部（局） 御中

厚生労働省健康局結核感染症課

黄熱に関する情報提供及び協力依頼について

アフリカのアンゴラ及びコンゴ民主共和国を中心に感染が確認されている黄熱に関して、本年5月19日に、世界保健機関（WHO）のIHR緊急委員会（以下「委員会」という。）において、加盟国に対して、IHR(2005)附録第7に従い、アンゴラ及びコンゴ民主共和国に出入国する者に対して、黄熱の予防接種の要求事項を執行するよう促しました。委員会は、黄熱の予防接種が1回で無期限に有効とする措置の導入を早めることについて助言をしておりますので、本件につきまして、追ってお知らせします。

また、国立感染症研究所においては、別紙のとおり、黄熱のリスクアセスメントを作成しました。本リスクアセスメントを踏まえて、現在流行が確認されている国・地域及びその周辺の黄熱のリスク国・地域へ渡航する場合は、黄熱予防接種証明書の提示が義務づけられているかにかかわらず、渡航の10日前までに黄熱の予防接種を受けることを推奨します。黄熱に関する問い合わせがあった場合は、リスクアセスメントを踏まえた情報提供をお願いするとともに、予防接種に関する問い合わせについては、検疫所（FORTH）ホームページに掲載されている黄熱ワクチンの接種機関一覧を御案内いただくようお願いします。

記

1. 黄熱の臨床上的特徴

(1) 症状

主な症状として発熱、頭痛、悪寒、筋肉痛、背部痛、悪心・嘔吐などがあります。約15%の発症者で数時間から1日程度の症状の寛解期に引き続き、高熱の再燃と、黄疸や出血傾向が進行し、ショックや多臓器不全に至る場合があります。重症化した場合、20-50%の致死率があります。

(2) 潜伏期間 3日～6日

(3) 感染経路 ウイルスに感染した媒介蚊の吸血によりヒトへ感染

2. 黄熱のリスク国・地域

(1) 現在流行が確認されている国・地域

アンゴラ、コンゴ民主共和国

(2) 現在発生が確認されている国・地域

ウガンダ、ペルー

(3) その他

アフリカ地域

エチオピア、カメルーン、ガーナ、ガボン、ガンビア、ギニア、ギニアビサウ、ケニア、コンゴ共和国、コートジボワール、シエラレオネ、スーダン、セネガル、赤道ギニア、中央アフリカ、チャド、トーゴ、ナイジェリア、ニジェール、ブルキナファソ、ブルンジ、ベナン、マリ、南スーダン、リベリア、モーリタニア

アメリカ地域

アルゼンチン、エクアドル、ガイアナ、コロンビア、スリナム、パナマ、フランス、領ギアナ、ブラジル、ベネズエラ、ボリビア、トリニダード・トバゴ（トリニダード島のみ）、パラグアイ

(参考資料)

別紙：国立感染症研究所「黄熱のリスクアセスメント」

別添1：リーフレット「アンゴラなどで「黄熱」が流行」

別添2：厚生労働省「黄熱に関するQ&A」

厚生労働省ホームページ「黄熱について」

<http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000124572.html>

検疫所（FORTH）海外感染症情報

<http://www.forth.go.jp/topics/fragment3.html>

検疫所（FORTH）海外感染症情報「黄熱について」

<http://www.forth.go.jp/useful/yellowfever.html>

外務省 海外安全ホームページ

http://www2.anzen.mofa.go.jp/kaian_search/pcspotwideareainfolist.asp?pageno=1&expireflg=0

WHO Yellow Fever

<http://www.who.int/csr/disease/yellowfev/en/>

CDC Yellow Fever

<http://www.cdc.gov/yellowfever/>